

結成大會提案議事項目抜粋

説明 伊藤、浜田、馬場、

- 一、國家統制經濟實現に關する件
 - 一、交通産業の國家統制に關する件
 - 一、日本精神の宣揚と非常時困難打開に關する件
 - 一、皇道政治徹底に關する件
 - 一、電氣事業公債の低利借換に關する件
 - 一、東京市交通統制に關する件
 - 一、從業員子弟の優先採用に關する件
 - 一、東京市電力自給に關する件
 - 一、市電更生委員會設置に關する件
- 外十六項目
- 以上実行方法本部一任。

五、日本交通労働總聯盟の情勢

合法左翼の傳統を固守してきた交總にも、その両角から右翼転向の自横が擧げられた。即ち神戸市電從業員組合の労働俱樂部との協働、東支の団体協約締結への組合方針は、依然として斗争主義、合法左翼の主義を守り大阪自動車從業員組合、及び自助会、愛友会、電氣労働の三団体を以て聯盟する大阪市電局斗同盟との間に、融合し得ざる一筋の溝渠を築いて、交總の實勢力を薄弱ならしめた。

加わらば関東に於ける、横浜市電共和会並東京市外電鉄部交会、関西に於ける名古屋市電並京都市電從業員組合の實質的破壊に依りて、交總の大大都市交通労働者大同團結への理想は自ら破れようとしてゐる。

内紛に依る東支の財政不確立は、交總年次大會を持ち得ざる情勢を招来し、之に代るべき、松大中支委員會を擁護して、一時を糊塗した。即ち十二月十四日大阪中央公會堂に於て、東支熊本以下十六名、自助会、自動車從業員組合（大阪）、神戸市電、京都市電等合計五十四名出席。下に、交總今後の運動方針、役員等が決定せられた。

本松大中支委員會に於ては、自助会が団体協約に絶対反対の立場を固持する關係上、東支及神戸市電の方向転換が如何に解決せられようか注目するところであつた。然るに難關なる本問題もその前日十